

平成21年度発掘調査遺跡の紹介

たけ はな 竹花遺跡Ⅱ

(糸魚川市寺町二丁目ほか)

竹花遺跡は、JR糸魚川駅の東側400m、海岸から400m内陸の沖積地に立地します。北陸新幹線建設に伴い1448㎡を発掘調査し、中世後期の遺物包含層を2層と、古墳時代の水田の畦と考えられる高まりを2条検出しました。

中世後期(14~16世紀)の層では、遺構は発見されませんでした。大量の陶磁器類(青磁・白磁・珠洲焼など)と共に、形代や箸状などの木製品が地面に突き刺さった状態で出土しており、何らかの祭祀が行われた場であったと考えられます。

古墳時代では、調査区の低い場所で畦状の高まりを検出しましたが、一段高い場所には見られないことから、水利を考慮して水田を築いていた当時の人々の生活の工夫を見ることができます。

平成20年度に北陸新幹線法線内の西隣を延べ1,400㎡にわたって調査しており、今回は2回目の調査となりますが、土層や遺跡の内容が前回の調査成果と類似していることから、同じ竹花遺跡が今回の調査区まで広がっていたと考えられます。

(株)古田組 相羽 重徳)



調査範囲(右奥に糸魚川駅を望む)



出土した陶磁器と木製品



作業風景

がらめき 柄目木遺跡Ⅱ

(阿賀野市大字下ノ橋字柄目木13番地1ほか)

柄目木遺跡は、阿賀野川右岸の沖積地に立地する古代～中世の遺跡です。国道49号阿賀野バイパス建設に伴い平成20年度から継続調査しており、今年度の調査では、延べ3,226㎡を対象に上層から中世～近世、下層から中世の遺跡を検出しました。

下層においては、掘立柱建物^{ほったてばしら}3棟、土坑^{どこう}1基、土地利用の区画を示す溝^{みぞ}5条を検出しました。これらの遺構は、いずれも同じ方向に並ぶことから、おおよそ同時期に築かれたと考えられます。溝の中からまとまって出土した陶磁器の年代から、下層の年代を14世紀代に位置付けることができます。遺構の密度は薄く、集落の縁辺部を調査したようです。

上層において、壁面・底面がよく焼けた土坑4基を検出しました。大きさは、いずれも100cm×70cmほどで、深さは残りの良いもので35cmを測ります。平面は隅に丸みをもつ長方形、断面は長方形で箱状をなします。また、中央には1条の溝が掘られていることが特徴的ですが、火力を高めるために空気を送り込んだ施設のようなものです。土坑の内部からは、底面付近に多量の炭が出土しましたが、その間には白く焼けた骨片が含まれていました。骨片は人骨とみられ、火葬施設として設けた遺構と考えられます。周辺からは、多量の骨片^{こつぺん}と炭が入った小さな穴も見つかり、調査対象地で葬送^{そうそう}が行われたようです。

関東地方などでは同様の土坑が多数検出されており、「火葬土坑^{かそうどこう}」と呼ばれています。出土遺物がなく、土坑の年代は定かではありませんが、検出層位と関東地方における類例の年代観から、中世後半に位置付けられる可能性が高いと考えています。今後、出土した炭で放射性炭素年代測定^{ほうしゃせいたん そねんだいそくてい}を行い、検証していく予定です。また、火葬土坑の類例は、新潟県内で数例が認められるのみです。このような火葬施設が導入された背景を検討し、地域の葬送^{いったん}の歴史の一端を明らかにしていきたいと考えています。(加藤 学)



近景(南西から)



火葬土坑



火葬土坑内の炭出土状況



炭の間に小さな骨片(矢印)

六反田南遺跡Ⅳ

(糸魚川市大字大和川字六反田地内)

六反田南遺跡は、現在の海岸線から約300m内陸の海川右岸の沖積低地に立地しています。一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い平成18年度から行っている発掘調査で、今年度は2つの調査区(KB1区・KD1区計約1,420㎡)を対象に、上層(古墳時代前期～近世)、中層(縄文時代後期?)、下層(縄文時代中期)の3面を調査する予定です。調査は5月中旬から着手し、現在KB1区上層の調査が終盤を迎えています。古墳時代の川跡、古墳時代後期～中世の柱穴・井戸などを検出しました。

古墳時代の川跡は、昨年の調査で滑石製玉類やその未製品が出土した古墳時代後期の川跡に続くものですが、残念ながら近世の川によって大半が壊されています。この川跡からは、近世の漆碗が多く出土しました。長野県境に程近い市内大所地区は、江戸時代中期頃から木地屋集落が営まれ、漆器製作地として知られています。出土した漆碗は木地屋集落の漆器との関係性を調べる上で興味深い資料と言えます。

また、柱穴からは、古代の土師器が主体的に出土していますが、古墳時代後期の須恵器杯や、中世の珠洲焼播鉢なども出土しています。現在は出土品との関係も含め、建物群の復元を行っているところです。

(株吉田建設 山本 友紀)



近世漆碗出土状況



作業風景

狐宮遺跡Ⅱ

(上越市本道字南沖477番地ほか)

狐宮遺跡は高田平野西部を流れる関川の右岸に立地し、周辺には水田が広がっています。一般国道253号上越三和道路の建設に伴い発掘調査を実施しました。平成17年度の調査によって、古代(奈良・平安時代)の集落を主体とする遺跡であることが分かっています。今年度は、平成17年度調査区の東側、1,589㎡を対象に4月中旬から6月中旬にかけて調査しました。

調査によって、現在の水田面から20～30cmほどの深さで、古代の掘立柱建物2棟・井戸1基のほか、土坑・溝・ピット・性格不明遺構を検出しました。掘立柱建物はいずれも調査区外へ広がることから建物の規模は不明ですが、このうちの1棟は桁行3間で1間は1.8～2.0m、柱穴は直径約70cmです。井戸は素掘り、内部から土器や曲物・刀子・被熱した礫が出土し、底面では完形の土師器や須恵器の碗が重なった状態で見つかりました。今年度の調査区は集落の縁辺部であったと考えられます。

(株吉田建設 矢部 英生)



近景(西から)



井戸:碗出土状況(西から)

整理報告遺跡

ながわり
長割遺跡

(村上市大字下相川字長割307ほか)

本紙No.62・63で紹介した長割遺跡は、平成20年10月で現地調査が終了し、平成21・22年度の2か年計画で報告書の作成作業を行っています。ここでは遺構に焦点をあて、これまで紹介していないもの、整理作業で新たに確認できたことなどを報告します。遺跡の立地や調査面積、出土遺物等の詳細は既刊号を参照下さい。

東西約350m、南北約180mに及ぶ遺跡の約1/8を南北に細長く発掘調査しました。調査範囲はムラの中心部で、^{たてあな}竪穴建物1棟、^{ふくろじょうどこう}袋状土坑7基、^{どこうぼ}土坑墓(成人の墓)5基、^{うめがめ}埋嚢(乳幼児の墓)10基のほか、建物の柱穴を約7,000基も確認しました。調査終了時には足の踏み場もない地区もありました。膨大な量を確認した柱穴で復元した建物は、^{へいちしき}平地式?建物が151棟、^{くわ}掘立柱建物は16棟にも及びます。

^{ふくろじょうどこう}袋状土坑：調査区北側で7基見つかりました。直径約1.5m、深さ約1.0mで、断面は下膨れとなります(写真1)。食糧を貯蔵した^{あなぐら}穴倉と考えています。廃棄後の埋まり土から多くの遺物が出土しました。埋まり土を捨てずに篩ったところ、^{ふる}動物の骨や魚の歯が多数見つかりました(写真2)。

^{たてあな}平地式?建物：^{あなぐら}竪穴住居のような掘り込みが確認できず、^ろ炉を中心に円形・楕円形に柱穴が配置されたものです(写真3)。直径5～6mのものが多く、最大で長径11.6mです。平均サイズは日常の家と考えています。151棟も見つかりました。これは同時に存在した数ではなく、長期間に営まれたムラで、何度も建て替えが行われた結果の累積数です。重複が著しい場所では、重複がない地区の建物をモデルとして、同規模の柱穴に棒をたてるなどして整理し、建物の復元を進めました(写真4)。現地調査時点で99棟、現地調査終了後に52棟を復元しましたが、今後の整理作業で更に数量は増加すると思われます。

遺跡の特徴：床面積が県内最大の掘立柱建物、濃密に分布する151棟もの平地式?建物、群材する袋状土坑(穴倉)、膨大な遺物量から県内を代表する縄文時代のムラであることが明らかです。周辺との標高差がほとんどない立地に営まれた大規模集落も類例に乏しく、様々な問題を提起する成果が得られました。(滝沢 規朗)



写真1 袋状土坑の土層断面



写真2 袋状土坑出土の魚歯(目盛は1mm)

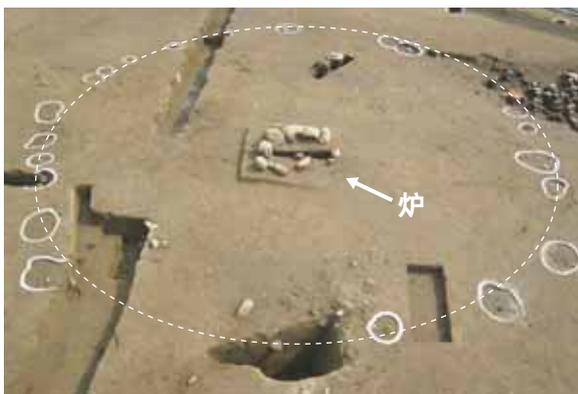


写真3 重複していない平地式?建物



写真4 重複が著しい平地式?建物の復元作業

H21年度発掘調査遺跡・整理作業・試掘確認予定一覧



本発掘調査

番号	遺跡名	事業名	所在地	調査期間	主な時代
1	古渡路遺跡Ⅲ	日浴道	村上市	4月～10月	縄文・中世
2	向大浦遺跡	揚川改良	東蒲原郡阿賀町	7月～10月	縄文
3	上空野中丸遺跡		東蒲原郡阿賀町	7月	縄文
4	小坂居付遺跡	白根BP	新潟市南区	4月～7月	中世
5	柄目木遺跡Ⅱ	阿賀野BP	阿賀野市	4月～6月	中世
6	村前東遺跡B		阿賀野市	4月～6月	中世
7	村前東遺跡A		阿賀野市	5月～11月	中世
8	境塚遺跡		阿賀野市	4月～10月	古代・中世
9	金屋遺跡Ⅲ	八箇峠道路	南魚沼市	4月～6月	古代
10	余川中道遺跡Ⅱ	六日町BP	南魚沼市	5月～11月	古墳・古代
11	狐宮遺跡Ⅱ	上越三和道路	上越市	4月～6月	古代
12	下割遺跡Ⅳ		上越市	6月～10月	古代
13	六反田南遺跡Ⅳ	糸魚川東BP	糸魚川市	5月～12月	縄文・古墳・中世
14	竹花遺跡Ⅱ	北陸新幹線	糸魚川市	5月～7月	古墳・中世
15	須沢角地遺跡		糸魚川市	7月～10月	古代

試掘確認調査

番号	地区名	所在地
1	寺島	糸魚川市
2	糸魚川駅構内	糸魚川市
3	万代橋下流	新潟市
4	49号阿賀野バイパス	阿賀野市
5	49号揚川改良	阿賀町
6	8号白根バイパス	上越市
7	8号柏崎バイパス	柏崎市
8	17号六日町バイパス	南魚沼市
9	253号上越三和道路	上越市
10	8号直江津バイパス	上越市
11	8号馬正面自歩道	上越市

整理作業

番号	遺跡名	所在地	主な時代
1	長割遺跡	村上市	縄文
2	下新保高田遺跡	村上市	古墳
3	川久保遺跡	湯沢町	縄文
4	山岸遺跡	糸魚川市	古代・中世
5	六反田南遺跡	糸魚川市	縄文・古墳
6	南押上遺跡	糸魚川市	古墳
7	荒町南新田遺跡	上越市	古代・中世

埋文インフォメーション

資料室の利用案内、埋文にいがた「定期送付について」



資料室の利用案内

県内外の埋蔵文化財に関する図書等を多数所蔵しています。
閲覧を希望される方は、資料室までお申し出ください。

開室日：平日（月曜日～金曜日）
開室日：土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12/9～1/3）
開室時間：8:30～17:00

資料のコピー
コピーを希望する方は係員までお申し出ください。
料金・・・1枚 10円
※白黒コピーのみ

埋文にいがた 新潟県埋蔵文化財調査事業団

「定期送付について」

当事業団では、埋蔵文化財に対する理解を深めていただくために、最新の発掘調査情報や県内の史跡などを紹介した広報紙『埋文にいがた』を年4回発行しています。

定期送付をご希望の方は下記によりお申込みください。

申し込みについて

①受付時間
平日（月曜日～金曜日まで） 8:30～17:00

②料金
送料のみ切手でいただけます。
（『埋文にいがた』の代金は不用です。）

③申し込み先
財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
『埋文にいがた』定期送付受付係 あて
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93-1
TEL：0250-25-3981 FAX：0250-25-3986
HP：http://www.maibun.net
mail：nigata@maibun.net

※『埋文にいがた』は1階ロビーのテレビラックでバックナンバーを購読することができます。自由にご覧ください。

第16回遺跡発掘調査報告会開催のお知らせ

第16回遺跡発掘調査報告会を下記により開催いたします。新潟市での開催となる今回は、新潟市内の縄文遺跡についての講演や、当事業団が平成19・20年度に発掘調査した遺跡についてスライドを使った調査報告を行います。また、講演・報告遺跡に加えて、近年発掘調査が行われた新潟市域の主な遺跡の出土品も公開します。事前の申し込みは不要です。皆様のご来場をお待ちしております。

期 日 平成21年9月6日(日)

会 場 新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2-2-2）
（駐車場240台 / JR新潟駅から車で10分）

日 程

- 9:00～ 開場
- 10:00～12:00 講演「水辺の縄文遺跡」
新潟市埋蔵文化財センター前山精明氏
- 12:00～13:15 休憩
- 13:15～15:35 遺跡発掘調査報告
（長割・西郷・山口・下新保高田・荒町南新田遺跡）
- 16:00 出土品展示終了

事業団ホームページ（http://www.maibun.net）をご覧ください





手を飾る縄文人

身体装飾のうち、手の飾りは、髪飾り・耳飾りと異なり、自分でもよく見ることができます。きっと縄文人も盛んに手を飾ったのでしょ。手（肩を除く腕・手・指）の飾りには、衣服の袖のカットや絞り込みの形、刺繍・染めによる模様、手甲・手袋、肌への彩色や彫り物（入れ墨とも）が考えられるほか、アクセサリー類があります。アクセサリーには、腕輪・指輪があるほか、ヒモ巻きヤリボンによる飾りもあったと考えられますが、後者は現代に遺存していません。

土偶から

土偶の観察によって、手の飾りらしき痕跡を認めることができる場合もあります。は両手首、は上膊（二の腕）に、衣服の袖口飾りかブレスレットを表しているように見えます。は長岡市（旧栃尾市）栃倉遺跡出土。縄文時代中期。は小千谷市城之腰遺跡出土。縄文時代後期。

腕輪

ブレスレットには、貝殻などに穴を開けヒモを通し連ねて巻く手纏と環状で全周完結する釧とがあります。ミサンガのようなものもあったと考えてよいでしょう。材質には彫刻を施した木や編みヒモに赤漆をかけたもの、貝殻、土を管状に焼きあげた土製品があり、東日本を中心にみつかっています。

は佐渡市（旧真野町）藤塚貝塚出土。サルボウの貝殻に孔をあけた貝輪。内径4～5cm。「上下の縁が磨かれたもの、赤彩の痕跡が認められるもの」があります。縄文時代中期。貝塚の少ない新潟県では佐渡でしか見つかりません。

は村上市（旧朝日村）元屋敷遺跡出土。複数点があり、上下端は整形されて、内径約7cmの円筒状になっています。「（縦列の）刺突の後に横位の多条沈線が巡り、複数の貝製腕輪を装着した状態を模倣したものと思われる」といいます。縄文時代後期。

は胎内市（旧中条町）野地遺跡出土。外面に赤彩したパイプ2本を芯にして、周囲に繊維状のものを巻き付けて胎とし、下地の黒漆の上に赤漆をかけています。内径は約6cm。縄文時代晩期。

は、長岡市（旧和島村）大武遺跡出土。木製彫刻赤漆塗で、破損して部分のみ遺存しています。内径は現況で約6cm。縄文時代晩期。

指輪

縄文時代中期後半から後期前半に認められ、蛇紋岩・滑石製で、北陸地方を中心に十数点が見つかり、それらの遺跡からは蛇紋岩・滑石・翡翠の石器・石製品が出土しています。

は糸魚川市長ヶ原遺跡出土。蛇紋岩製。縄文時代中期終末ないし後期初頭。完存品はこれ1点のみで、全体の様子を知る上で貴重です。リングの内径は1.3mm。

「北陸地方」・「遺跡出土の石質」をキーワードにすると、指輪は「姫川下流域で制作され」、北陸地方に供給されていたのかもしれない。

腕輪や指輪の内径からは、現代人の感覚では大人が付けるには小さいように思えますが、縄文人との体格の差でしょうか。或は、数が少ないことから、限られた特別な小人が付けるものだったのでしょうか。

（藤巻 正信）

中期



後・晩期



長岡市
佐渡市
糸魚川市
村上市
各教育委員会提供
（縮尺不同）

県内の遺跡・遺物65

与板城跡 (昭和29年県指定)

(遺跡所在地:長岡市与板町字十二谷)

旧与板町の大津山(通称城山)にあります。上杉謙信の重臣直江景綱創築、信綱・兼統三代57年間の居城と伝えられています。北方約2kmに本与板城を控えています。

城山は海拔104m。三島丘陵から信濃川に向かって突き出す支陵は、陸路・舟運を掌握するに絶好の拠点です。巧みな縄張り工事によって全山を要塞化した、戦国期の典型的な山城です。主郭は頂上最高部で東西30間、南北48間。南稜線上に二ノ曲輪、三ノ曲輪を配し、空壕で独立させています。主郭直下から東、北の稜線には削崖・空壕を施し、三ノ曲輪の背後は幅15mの大堀切に至っています。城の東側には黒川・信濃川が流れ、内堀・外堀の役に立っていました。

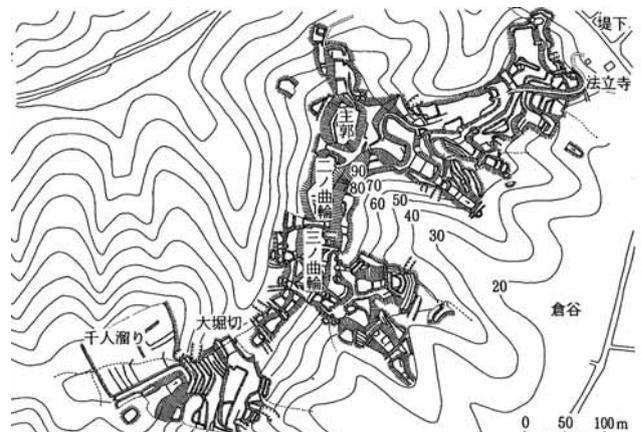
西南山腹には馬場・的場・角場があります。西ノ谷は城主居館・重臣邸、東麓一帯は城兵の散居地といわれ、柳町・梅津屋敷・鍛冶屋敷などの地名が残っています。北の谷には直江兼統が再興したという都野神社、直江氏の菩提寺である徳昌寺があり、館の御廊、立ヶ入などの地名が残っています。東麓裾には倉谷から中村(現在の南中)まで直線の並木の大路があり、大手門の跡もあったということから、城下は北の谷から東の水田地帯に広がっていたものと考えられています。

謙信没後の御館の乱では、景虎派の本庄秀綱(栃尾城)、神余親綱(三条城)などとの攻防戦があり、信綱の指示によって家臣が敵方を攻撃するなど景勝方の中越の拠点で、信綱の活躍の場でした。

上杉氏の会津移封に直江氏も従い、廃城となりました。



与板城周辺の地名



与板城跡

・とも『与板町史』から転載。

埋文にいがたNo 67

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津 93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
e-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 阿部印刷株式会社